



中学校3年生が Jr. 課題研究の中間発表を行いました。



中学校3年生は、「自らの興味・関心に応じた課題を設定し、その課題について調査や実験、観察を通して追究し、様々な知識・情報を収集した上で、自ら判断して論理的に組み立てることにより、他人にわかりやすく伝えることができるようにする」ことを目的として、総合的な学習の時間の中で Jr. 課題研究を行っています。人文・社会系の研究を行う「グローバル」と科学的な研究を行う「サイエンス」に分かれて取り組んでおり、12月10日(金)に研究成果の中間発表を行いました。

「サイエンス」では、物理・化学・生物・数学の4グループに分かれ、さらにグループ内で4～5人程度の班を作って研究テーマを設定し研究に取り組んでいます。中間発表では、4月から取り組んできた研究の過程や成果について、中学・高校の先生だけでなく、中学3年生と2年生に向けて発表しました。

発表では、これまでの研究成果や今後の方向性についてパワーポイントを使って分かりやすく発表していました。質疑応答では、中学2年生からの素朴な疑問や高校の先生からの鋭い質問にも準備したスライドを活用して答えていました。今後は、2月の最終発表会に向けて追加実験を行い、さらに研究を深めていきます。

科学部が自然科学研究発表大会で最優秀賞を受賞しました。

10月24日(日)に第11回佐賀県自然科学研究発表大会が開催されました。1年生は「金属錯体の色から見たd軌道の予測」、2年生が「分子構造から考えるクマリンの発芽抑制」という研究テーマでポスター発表を行いました。大会では、2年生の発表が最優秀賞に選ばれ、2月に実施される令和3年度九州高等学校生徒理科研究発表大会沖縄大会と来年度8月に東京都で開催される第46回全国高等学校総合文化祭東京大会に佐賀県代表として参加することが決まりました。

2年生は、サクラの葉に含まれる「クマリン」という物質が持つ、種子の発芽を抑制する効果に注目して研究を行いました。クマリンの分子構造を化学的に変化させていくことで、クマリンのどの構造に種子の発芽を抑制する効果があるかを調べて突き止めました。今後も研究を深めていき、来年度の全国大会で優秀な成績を収めて欲しいと思います。

